

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 期間を通して、低圧部が沖縄の南に位置し、徐々に不明瞭になりながら停滞する。
- 8日から11日頃にかけては、日本付近は気圧の谷となる。沖縄の南に位置する低圧部の周辺の暖かく湿った空気に加えて、日本のはるか東に位置する高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込みやすい。
- 9日は、日本の南の低圧部の東側にある暖かく湿った空気が東日本・西日本太平洋側に流れ込みやすい。

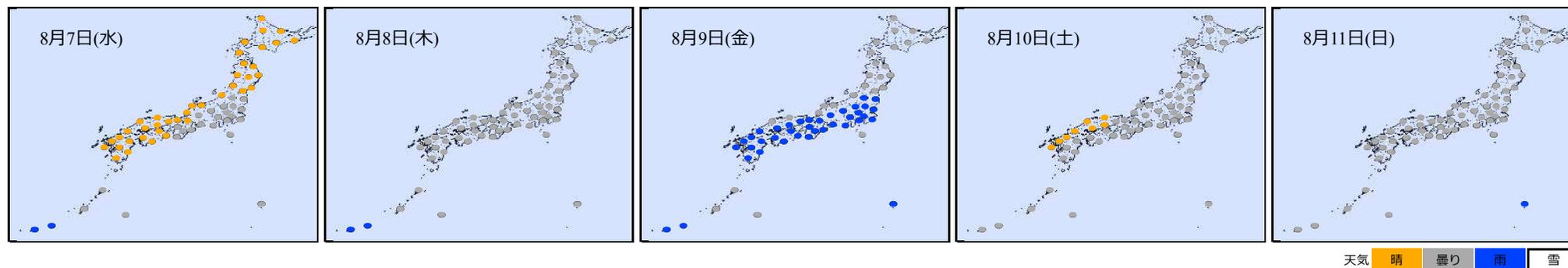
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 気温が平年よりかなり高くなる所がある。熱中症など健康管理に留意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

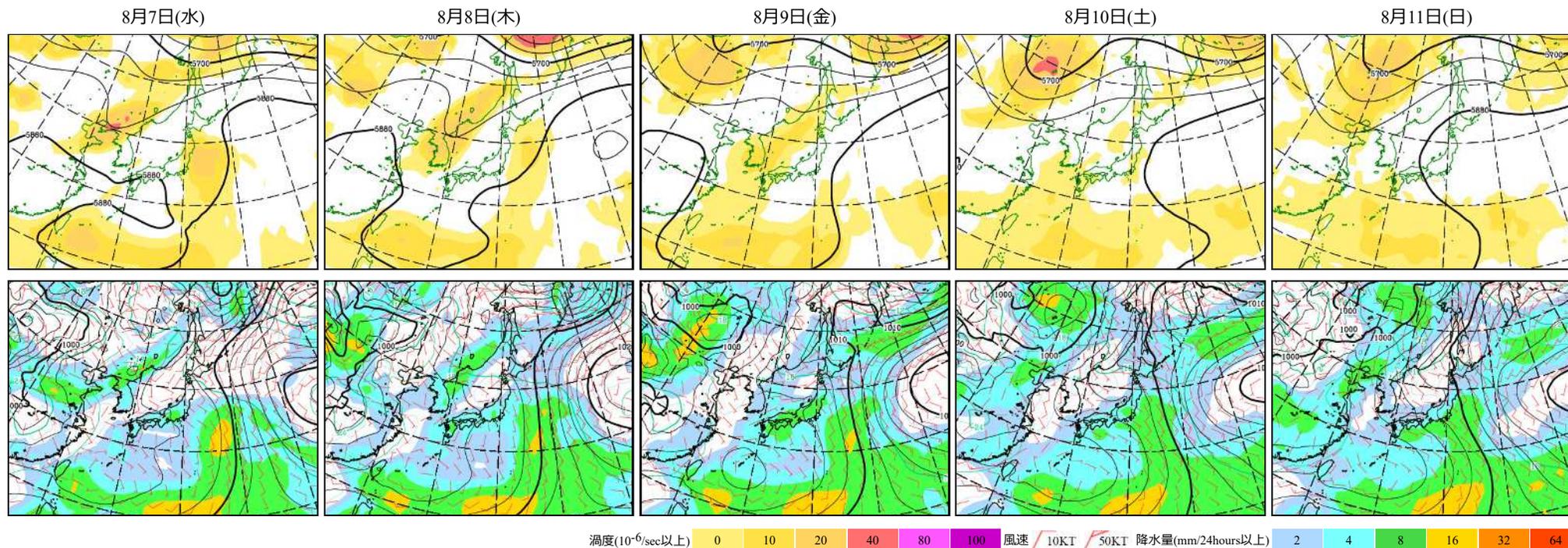
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

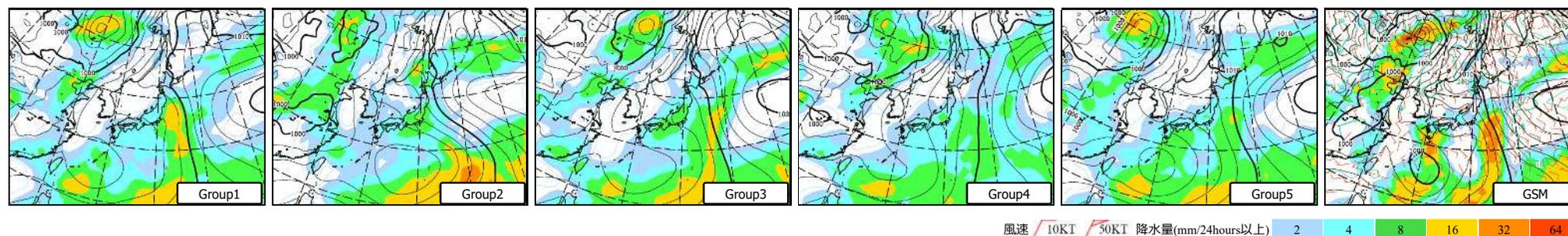


- 北日本は、曇りや晴れの日が多い。
- 東日本と西日本では、曇りや晴れの日が多いが、9日は雨が降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りの所が多く、9日頃までは先島諸島では雨が降る。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは、期間後半から前日資料よりも増加し、6日目以降は大きい。
- 前日資料は、日本の南の低圧部は、日本付近に接近するクラスターがみられたが、本日の資料では、本州付近に接近する予想は少なくなった。ただし、9日頃に太平洋側を暖かく湿った空気が流れ込みやすいとするメンバーが増えた。なお、日本の南にある低圧部の予想については、不確実性が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に作成する。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。